

令和7年度
議事録 第5回 CS（学校運営協議会）

日時：令和8年1月15日（木） 15:15～16:15

参加者：津波古 充仁、西銘 宜正、上原 良三、仲本 多美子、普天間 邦光、
津波古 充也、上江洲 太志、校長、教頭、市教委（中上 郁夫参事、仲宗根 みゆき・佐久間 良太地域連携コーディネーター）

【会順】

1 学校長挨拶

2 熟議

(1) 2学期の学校評価について

①委員：いじめを見つけた時の対応や保護者への連絡等はどうなっているか。

教頭：指導が終わった場合も含め管理職へ報告がある。その日のうちで保護者へも連絡を入れるよう職員へ指導している。

校長：いじめは起こると想定して日々見逃さないよう指導にあたっている。小さいうちから学校が把握していじめにつなげないことを徹底している。子どもたちの学校評価からも教師に対するいじめへの対応は肯定的意見が高い。子どもは先生たちが対応してくれていると思っているが、保護者はそうでもないということもあることは課題としてきちんと受け止めている。これからもいじめ問題を処理していくうえで保護者とのやりとりや連携を密にしていく。

委員：いじめてしまう子たちを地域に溶け込ませる方法が何かないか。地域の祭りやPTAとか。

校長：地域行事参加はいじめの抑止力にはなると思う。しかし、それがままならないのも現状である。

委員：地域行事にも子どもたちが積極的に参加できるよう、支部長さんを中心に促してほしい。

委員：学校は丁寧に対応していると思うが、「助けて」と言葉で発せる子を育てたい。

②委員：学ぶ意欲が高学年になるにつれ低くなっている。授業での「分からない」をそのままにせず、分かるようになってほしい。そのためにボランティアの立場でも一緒に考えていきたい。また「学ぶ目的」や子どもの「学びの多様化」を学校だけの問題ではなく、行政も一緒に考え直さなければならない。

校長：学校は学ぶ場なので、子どもたちにとって「分かる授業」を第一にし、そこに力を注ぎたい。地域は地域で・・・。それぞれの立場でやるべきことを。

委員：地域力が一番大事だと考える。

教頭：授業を見に行くと、「字を書くことがめんどくさい。タブレットだったらいい。」と子どもたちから聞こえることもある。今、子どもたちが自分に合う方法を見つけられるよう教師がより多くの選択肢を準備している。自己選択・自己決定の場を意識して設定している。これからも継続していく。

(2) 2学期の行事（運動会）について

教頭：運動会について児童にアンケートを取ったところ、土曜日開催について83%の児童が肯定的な評価となっていた。次年度の開催（曜日・開催時間帯等）については、改めて学校運営協議委員会やPTA役員とも協議し決定していく。

(3) R8 教育課程編成について

校長：学期ごとに時数を調整し、適正な時数を設定していく。子どもの下校時間に関わることなので、早めに周知していく。⇒CS承認

校長：登校奨励時刻を8時、児童玄関時刻を7時55分へ変更する。⇒CS承認

(4) その他

委員：市教委主導の補習ボランティアの時間帯と内容に関して教えてほしい。

教頭：現在申請している内容は、月・金曜日で低・中高学年の時間を分ける。また、内容に関しては担任から出す。タブレットドリルで算数を中心に進めてもらう方向。